

『何故、古琉球の首都(那覇・首里)の 空間構造を分析するか』

その時代、その時代を支える空間というものがあり、国家の
繁栄と市民生活はこの空間のあり方に大きく依存しているので
はなかるうか。

Refer P.42

古琉球 (1429年 ~ 1609年).....大交易時代

未曾有の繁栄、沖縄(琉球)のアイデンティティの原型

“その空間構造の仕掛けを探る”

石灰岩台地上の政治都市・首里

湾奥の港都・那覇

同時代のマラッカ海峡沿いの交易都市 (家産国家) 印・マジャ
パヒト王国が同様

Refer P.42

中山王府は政治・国王、祭事・聞得大君という祭政一致の完
成度の極めて高い政治スタイル

(西欧型の権力支配とは本質的に異なる。神との儀礼を国民
によって執り行うことに国王への忠誠を確保する、極めて儀礼
的かつ様式的なもの)